令和5年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立松任高等学校

重点目標	具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 ICT活用や外部人材活用等により生徒の能動的な学習を推進し、進学実績の向上、就職希望者の100%就職など多様な生徒の進路実現を目指す。	①	すべての生徒が授業を受ける基本的態度を身につけられるように指導する。	私は私語や居眠りをせずに集中して授業に参加している、と回答する生徒の割合が A　80%以上である。 B　75%以上80%未満である。 C　70%以上75%未満である。 D　70%未満である。	７８％ 評価Ｂ 肯定的評価 １年　８０％ ２年　７２％ ３年　８２％	中間評価の８０％より減少した。 生徒による授業評価においては、「教員が私語やいねむりを注意している。」との回答が９３．２％（当てはまると大体当てはまるの合計）となっている。基礎学力の定着には、授業規律の確保と学習環境の整備が大事である。今後も組織的に指導を行っていきたい。
	②	基礎学力の向上を図るため、ICT機器の活用や、自分の考えを書いたり、話したりする能動的な授業実践を通して、より一層生徒の学習意欲を喚起する。	ICT機器の活用や自分の考えを書いたり、話したりする授業によって学習意欲が高まった、と回答する生徒の割合が A　80%以上である。 B　75%以上80%未満である。 C　70%以上75%未満である。 D　70%未満である。	７７％ 評価Ｂ 肯定的評価 １年　７６％ ２年　７７％ ３年　７８％	中間評価の７５．３％より増加した。 前年度よりはやや減少している。今後はさらに端末使用を前提とした授業を展開するために、授業改善や実践の共有を教員間で協力して行っていきたい。
	③	考査前の補充学習等や部活動ごとの勉強会などで、学習習慣を促し、家庭学習時間の増加を目指す。	考査1週間前から考査期間中の学習時間が平均1日90分を超えている生徒の割合が A　70%以上である。 B　60%以上70%未満である。 C　55%以上65%未満である。 D　55%未満である。	４２％ 評価Ｄ ９０分超えの割合 １年　４９％ ２年　４６％ ３年　３３％ ０時間　７％	中間評価の５０％より減少した。 学校全体で平均１時間を超えている生徒の割合は６０％となっている。 今後は学校全体として、より学習時間が確保できるよう、学年と各教科で連携をとり、提出課題の量とバランスをはかる。また、生活の中で生徒のよい面を見出し、日頃の生活習慣と学習習慣の見直しを促すよう声かけを行い、学習計画にしっかり取り組めるよう進めていきたい。
	④	1年次より継続してきた進学希望者に対するガイダンス機能を向上させ、個別指導や支援体制を強化することで、第1希望への進学を実現できた生徒の割合が90%以上を目指す。	3年生の進学希望者で進学先を決定でき、第1希望への進学を実現できた生徒の割合が A　90%以上である。 B　85%以上90%未満である。 C　80%以上85%未満である。 D　80%未満である。	９３％ 評価Ａ 進学希望者　４４名 進学決定者　４１名	今年度も指定校推薦、公募推薦を含め多くの生徒が第１希望の学校に合格したことは評価できる。今年度も推薦入試に向けた志望理由書の作成や面接練習を夏季休業中に集中して行い、計画的に準備を進めたことが良かったのではないかと考えられる。基礎学力を向上させることが進路実現の土台であり、志望理由を明確化にする指導の重要性を職員で共有し、生徒の意識を高め、地力をつける指導を今後も継続させたい。
	⑤	キャリアに対する意識を向上させ、就職希望者全員の内定を目指す。	学校紹介を希望する生徒で、企業から内定を得ることができた生徒の割合が A　90%以上である。 B　85%以上90%未満である。 C　80%以上85%未満である。 D　80%未満である。	１００％ 評価Ａ 学校紹介 就職希望者　２５名 就職決定者　２５名	企業側の求人意欲は前年以上に高い水準である。求人数は前年よりかなり増加した。卒業生の活躍により、近年の求人にない事務職もみられた。また中小企業の求人も製造、サービス業を中心に活発であった。学校紹介を希望する生徒は、本人の努力に加え、「就職教室」のサポートを受けたが、第１希望の１回目の受験では、73%の内定という厳しい結果となった。大手企業の求人は、成績・欠席・企業の人物評価を含め例年通りであり、推薦者の選定が重要であると考える。今年度は、自分の方向性を明確化できない生徒の進路指導が難しく、対応にかなり苦慮した。

学校関係者評価委員会の評価	・学習時間が上昇していくためには、生徒の生活習慣の見直しから考え、昼夜逆転しないよう生徒を指導することが重要である。 ・ＩＣＴ機器を活用して、生徒が積極的に授業に取り組めるような方策を今後も継続してほしい。 ・クラスによって温度差が見られないよう教職員の中で情報共有を行ったり、公開授業のあり方を模索してみてほしい。
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策	・今後学校全体として、より学習時間が確保できるよう、学年と各教科で連携をとり改善できるよう努めたい。 ・端末使用を前提とした授業づくりを目指し、また、授業実践の共有を教員間で図り「生徒が主体的に、積極的に参加できる」取り組みを強化したい。

重点目標	具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 部活動や特別活動の活性化を図ることで、自己肯定感を高め、心身ともに健やかな人間力のある生徒を育成する。	①	部活動加入の促進とともに継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	継続して部活動をしている生徒の割合が A　70%以上である。 B　60%以上70%未満である。 C　50%以上60%未満である。 D　50%未満である。	６９．２％ （１、２年生） 評価Ｂ １月末現在の加入率 １年生　８４．９％ ２年生　４９．３％ 加入数１０８人	部員数の減少が著しく、数字以上に部活動の停滞感が強い。運動部では団体競技として人数が確保できない部活動が多く、部員のモチベーションの維持や練習環境が課題となっている。また、中学生や地域に対するアピール材料にも乏しく、学校の魅力向上や活性化の点では最重要課題として考えられる。文化部では活動回数の少ない部活動に所属する生徒が多く、加入率は高いものの学校の活性化には直接つながっていない。しかし、２年生に比べて１年生の加入率が高いことから、来年度の新入部員勧誘時に２年生を中心に各部のアピールを工夫することで新入部員数の増加を促したい。また、生徒に合った適切な目標設定をすることで生徒の自己肯定感を高めるとともに、外部人材などによる講習などを通して部活動へのモチベーションを保つことを心がけたい。
	②	部活動、生徒会、各種委員会及び学年での地域交流や地域貢献活動への参加の機会を増やす。	部活動等で地域（外部）の活動に参加した延べ回数が A　60回以上である。 B　50回以上60回未満である。 C　40回以上50回未満である。 D　40回未満である。	５１回 評価Ｂ 運動部　１１回 文化部　１６回 生徒会・委員会　２回 学年他　２２回	部員数が減少していることで、部活動による地域貢献が思うようできていない。また、競技を通じての中学生との交流も減少している。一方で、２学年の「総合的な探究の時間」において地域の商店街と連携した企画により、地域の方々との関わりが増えた。１年生では、職業体験を通して地域社会との交流が続いている。今後は生徒会がボランティア活動を企画するなど、地域に根差した活動を取り入れたい。
	③	保健委員会を中心に、生徒全体に対して生活習慣確立の大切さについて伝え、自己の健康管理能力を向上させる。	私は、基本的な生活習慣を整えようとしている、と回答する生徒の割合が A　80%以上である。 B　70%以上80%未満である。 C　60%以上70%未満である。 D　60%未満である。	７９％ 評価Ｂ １年生　７３％ ２年生　６９％ ３年生　９１％	昨年度より１％減少した。学年別に比較すると、１、３年生は昨年度と同じ、２年生が４％減少した。例年１年生は生活リズムが変化するため低い傾向があるが、今年度は２年生が最も低い結果となった。２年生は昨年度より生活習慣確率への意識が低い傾向があったので、改善に向けて指導をしていきたい。今年度の保健委員会では歯科保健に関して研究発表を行った。調査は歯科講話を聞く２年生と保健委員に実施したが。歯を１日１回しか磨かない人が約１５％いること等の実態が分かった。次年度も継続して保健委員会と共に、調査や研究発表等を通して情報発信をしていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・部活動を通してどういう資質・態度を身につけさせたいのか考えて指導していただきたい。 ・部活動の活性化を図らないと、小・中学生は部活動が活発なところの進学を考えている。現2年生の加入率が低すぎると思います。
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策	・部活動の活性化を図るために運動部は広報活動に頑張ってるが、入学希望者増加に繋がっていない。また、生徒会と意見交換した中でも、加入率などの改善が必要とされているので、来年度は生徒会と協力して活性化案を早期に作成し、実践したい。 ・部活動のＰＲは、ホームページなどを活用して情報発信したい。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3	挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、望ましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心・安全な学校づくりを促進する。	①	登校時の挨拶運動や授業の開始と終了の挨拶、教職員による廊下での声掛け等を充実させ、挨拶を実行する機会を増やす。特に朝の登校時においては、挨拶を自分から自然にできる生徒を増やす。	自ら挨拶をしている生徒の割合が A　90%以上である。 B　85%以上90%未満である。 C　80%以上85%未満である。 D　80%未満である	８８％ 評価Ｂ あてはまる　４１％ やや　４７％ あまり　１０％ 全く　２％	中間評価は８７％、昨年度は８６％であった。毎朝、職員による登校指導での声掛けなどに対して、しっかりと挨拶ができる生徒がいる一方で、顔を上げ、挨拶を返すことができない生徒もいる。今年度は、集会等で挨拶ができている生徒が増えてきている等を伝え、指導した。次年度も自ら挨拶することの意義を伝え、継続して指導していきたい。
		②	生徒が端正な服装容儀で学校生活に臨むことができるようにする。	服装容儀で指導を受けることなく、学校生活に臨んでいる生徒の割合が A　90%以上である B　80%以上90%未満である C　70%以上80%未満である D　70%未満である	９１％ 評価Ａ あてはまる　４９％ やや　４２％ あまり　９％ 全く　０％	中間評価は９１％や、昨年度は９５％であった。指導に対してはきちんと対応し、正しい服装容疑を意識して学校生活に臨んでいる。注意を繰り返し受ける生徒に対しては継続指導を行い、服装容疑への意識が高まるように指導していきたい。
		③	職員全員で登校指導時に遅刻防止を呼びかけるとともに、定期的に集会で啓発する。挨拶運動に合わせて、遅刻防止を呼びかける。	年間の遅刻回数0(ゼロ)の生徒の割合が A　70%以上である。 B　60%以上70%未満である。 C　50%以上60%未満である。 D　50%未満である。	４０％ 評価Ｄ 肯定評価 １年　４８％ ２年　３６％ ３年　３５％	中間評価の４３％や、昨年度の４３％よりも減少した。生活習慣の乱れやストレス等により体調がすぐれない生徒が増えたため、遅刻者が多くなったと思われる。遅刻に対する意識が低い生徒もおり、今後も登校指導等で遅刻防止を呼びかけ、改善を図りたい。また、学年が上がるにつれ、時間を守る意識が低下している。卒業後の生活にもつながるような指導をしていきたい。
		④	学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。	私はいじめをしたり、いじめを見逃したりはしないと回答する生徒の割合が A　90%である。 B　85%以上90%未満である。 C　80%以上85%未満である。 D　80%未満である。	８６％ 評価Ｂ あてはまる　５１％ やや　３５％ あまり　１１％ 全く　３％	中間評価の９４％や、昨年度の８９％よりも減少した。いじめアンケートの実施や担任の先生との面談を行うことにより、いじめの積極的認知を行っている。これまでにいじめが１件確認された。いじめ問題対策チームによる会議を行い、いじめ問題に取り組んでいる。来年度も、学校としていじめを許さない姿勢を示すとともに、相談しやすい環境作りを行い、いじめの未然防止・積極的認知に取り組みたい。
		⑤	職員が緊密に連携して、問題を抱える生徒の早期発見と支援及び問題行動の未然防止ができるようにする。	職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、組織的に生徒の支援ができている、と回答する職員の割合が A　95%以上である。 B　90%以上95%未満である。 C　85%以上90%未満である。 D　85%未満である。	９７％ 評価Ａ あてはまる　７０％ やや　２７％ あまり　３％ 全く　０％	昨年度の最終評価の結果と比較すると、あてはまると回答した職員の割合が７％上昇している。生徒数が少ない利点を生かして、一人一人の生徒に目を行き届かせ、職員間の連携強化に努めた結果と分析している。評価はＡであったが１００％があるべき姿なので、これまで以上に生徒の情報を共有して、生徒一人一人が抱える問題を早期に発見し、組織的な支援ができるように取り組みを継続していきたい。また、スクールカウンセラーをはじめ特別支援サポーターや発達障害アドバイザー等、外部人材を有効に活用して、専門家の知見から問題の解決に努めていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・生徒自らが３年間様々な活動に対して、どう取り組んで今年どう変容したかを生徒からアンケートをとり、松任高校３年間で何を身につけることのできたのか集約してほしい。 ・松任高校としての魅力づくりを行い、外部へのＰＲ活動に繋がることを模索し、学校全体の活性化を目指して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策	・従来通りの首尾一貫した丁寧な指導をする一方で、個人の事情に配慮しながら指導を行っていく。凡事徹底を目標に生活習慣や学習習慣の見直しを図り、本校卒業時には一人の社会人として当たり前の素養などを身につけることができたと思える指導を職員一丸となって進めていきたい。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4	生徒・保護者・地域の理解を得ながら教職員の多忙化改善を図り、質の高い教育活動の継続に努める。	①	職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。	時間外勤務時間の一ヶ月の平均が80時間未満の職員の割合が A　100%である。 B　90%以上100%未満である。 C　80%以上90%未満である。 D　80%未満である。	９７％ 評価Ｂ ８０時間超え ４月　２人　５月　３人 ６月　２人　７月　０人 ８月　０人　９月　１人 10月　１人　11月　１人 12月　０人　１月　０人	部活動で合同チームでの大会参加のため、合同練習で他校に移動することが多く、業務負担が大きかった。また、一部の職員で、部活動の大会役員や係員としての負担や新教育課程での教科指導等の日常的な業務の量が減ることはなく、より負担が大きくなっているのが現状である。 ・今後も不要な業務の見直し、精選に努める。 ・一部の職員に負担が集中しないように、柔軟な業務分担を示す。
学校関係者評価委員会の評価				・アンケート数値については、良好だと感じます。		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策				・今後も不要な業務の見直しを図り、一人に業務が集中しないように分担させていきたい。		
5	外部との連携を密にし、本校への理解を図る。また、広報活動を充実させ、地域から信頼される学校づくりに努める。	①	学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	広報活動（各種通信、メール配信、ＨＰ等）が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まった、と回答する保護者の割合が A　90%以上である。 B　85%以上90%未満である。 C　75%以上85%未満である。 D　75%未満である。	８８％ 評価Ｂ あてはまる　３１％ やや　５７％ あまり　９％ 全く　４％	今年度も、学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信するよう努めた。Ｒ５中間評価では８６％、Ｒ５最終評価では８８％と若干ではあるが増加した。今後も必要な情報を容易かつ迅速に閲覧できるホームページの改善に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価				・部活動のホームページに工夫を凝らして欲しい。部活動で学校選びを考えている中学生が多い。 ・松任高校の魅力を常に情報発信してください。もっともっとホームページ作りに研鑽して欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策				・今年度は生徒の活動様子がわかるように、行事が終了したらすぐ情報発信に努めてきた。 ・部活動の活動内容などを魅力ある内容で発信できるよう職員でホームページ作り改善に取り組んでいきたい。		